

令和5年度 実習Ⅱ シラバス

科目	実習Ⅱ	単位	4単位	対象	2年 染織デザイン科
目標	(1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】 (2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力等】 (3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】				
内容	基本的な技内容を「染め」「織り」「デザイン」「色染化学」の4分野に分け、ローテーションで学習する。 1年工業技術基礎(2単位)と1年実習(2単位)を合わせ、計4単位で実施。 1. 染め ・紅型の歴史について ・型染めの工程と技法を習得する。 ・配色計画を立て、計画的に色差しを行う。 2. 織り ・織物設計から製織までの工程を学習する。 ・ロートン織り技法による半幅帯(または細帯)を制作する。 3. デザイン ・イラストレーター、フォトショップの基本操作 ・平面構成1(幾何学形体による色面構成)・・・イラストレーター ・平面構成2(立体的幾何学形体による色面構成)・・・イラストレーター ・パッケージデザインのプレゼンテーション・・・フォトショップ、イラストレーター 4. 色染化学 ・酸性染料による三色混合、植物染料についての性質試験。 ・レマゾール染料による捺染技法をつかった手ぬぐい制作。				
〔学習のワンポイントアドバイス〕					
1. 染め (1) 古典柄の模写をとおり、紅型染めの技法を学ぶ。 (2) スケッチとデザインから型彫りまでの工程を学ぶ。 (3) 絹地に染めてタペストリーを制作する。 2. 織り (1) 織物の基礎技術を習得する事。 (2) 各々が個性的な創作活動を試みる。 3. デザイン (1) 学習課題をノート・ファイルにまとめ、学習の理解を深める。 (2) 画像処理で作成した課題は、必ずプリントアウトし、掲示し講評会を行う。 (3) レンダリングにおける立体表現では、描写(画)力の大切さを結び付けて指導する。 (4) コンセプト入力においては、その意義と言語表現を指導する。 4. 色染化学					

令和5年度 実習Ⅱ シラバス

- (1) 実験方法を十分に理解し、安全に実験を行う。
- (2) 実験データをファイルに整理し、実験結果の振り返りまでしっかりと行う。

〔使用する教科書・教材等〕

- (1) 『染織デザイン』（工業760、実教出版）
- (2) その他、プリントや参考作品（紅型、織物などの作品、見本）など

〔評価の観点〕

・知識・技能

工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。

・思考力・判断力・表現力

工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。

・主体的に学習に取り組む態度

工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

〔評価の方法〕 次の(1)～(3)を上記〔評価の観点〕に照し合わせ、総合的に判断し評価する。

- (1) 授業中の内容が理解できているか、積極的に取り組んでいるか。
- (2) 課題やファイル等がきちんと提出されているか。
- (3) 日々の授業態度等。

〔進路との関わり〕

- (1) 美大・芸大・専門学校など、美術・工芸的な進学先で学ぶ知識の基礎となる。
- (2) 染織工芸の基礎知識として役立つ。